

問1 縄文時代に作られた、まじないや豊かな収穫、安産などを祈るために用いられたとされる、人や動物をかたどった土製品を何といいますか。

(2019年 山形県公立入試 類似)

1. 青銅器
2. 石包丁
3. 土偶
4. 埴輪

問2 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。

(2016年 富山県公立入試 類似)

1. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。
2. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。
3. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。
4. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。

問3 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。

(2025年 北海道公立入試 類似)

1. 登呂遺跡
2. 岩宿遺跡
3. 三内丸山遺跡
4. 吉野ヶ里遺跡

問4 縄文時代の人々が製作した「土偶」について、その特徴や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。

(2023年 徳島県公立入試 類似)

1. 亡くなった有力者の権力を示すために、巨大な墓の周囲に並べる装飾として作られた。
2. 大陸から伝わった稲作技術とともに、収穫した稲の穂を摘み取るための道具として広まった。
3. 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的道具として用いられた。
4. 武士が戦場に赴く際、勝利を祈願して寺社に奉納するための供え物として作られた。

問5 縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。

(2019年 群馬県公立入試 類似)

1. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
2. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
3. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。
4. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。

問6 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。

(2022年 山口県公立入試 類似)

1. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。
2. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。
3. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。
4. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。

問7 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。

(2017年 茨城県公立入試 類似)

1. 竪穴住居
2. 書院造
3. 寝殿造
4. 高床倉庫

問8 山形県舟形町で出土し、高さが約45cmあり国宝にも指定されている「縄文の女神」について述べた文として、歴史的な事実に基づいた正しい説明を選びなさい。

(2019年 山形県公立入試 類似)

1. 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。
2. 弥生時代の遺跡から発見された青銅器であり、大陸との交流を示す資料である。
3. 飛鳥時代に大陸から伝わった仏教の影響を受けて作られた、初期の仏像である。
4. 古墳の周囲に並べられた埴輪の一種であり、武人や馬の形をしたものが多い。

問9 日本の北方に位置する地域に古くから居住する先住民族と、その文化に関する記述として最も適切なものを次の中から選びなさい。

(山形県公立入試 類似)

1. 平安時代以前に東北地方に住み、朝廷の支配拡大に対して抵抗を続けたことで「蝦夷(えみし)」と呼ばれた。
2. 古代に朝鮮半島や中国大陸から移住し、日本列島に稲作や青銅器・鉄器などの進んだ技術を伝えた。
3. 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク(知床)などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。
4. 沖縄などの南西諸島を中心に独自の王国を築き、中国や東南アジアとの中継貿易によって繁栄した。

問10 佐賀県の東名遺跡(ひがしみよういせき)では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。

(2019年 佐賀県公立入試 類似)

1. 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。
2. 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶(どぐう)が作られた。
3. 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。
4. 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。

問11 青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。

(2025年 北海道公立入試 類似)

1. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。
2. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
3. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。
4. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。

問12 縄文時代の遺跡から出土する、表面に縄目の文様が施されたり、大きな眼鏡のような目を持つ「遮光器土偶」などの土製品について、その当時の使われ方として最も適切な説明を選びなさい。

(2026年 千葉県公立入試 類似)

1. 食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。
2. 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、寺院の内部を飾るための仏像として使われた。
3. 稲作が普及した社会において、収穫した米を保存するための頑丈な容器として使われた。
4. 亡くなった豪族の墓である古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めるために使われた。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信仰しており、食物の豊穡や子孫繁栄を祈るために、女性をかたどった人形（ひとがた）などの土製品を作りました。これに対し、古墳時代の古墳の周囲に並べられた土製品は埴輪と呼ばれ、目的や時代が異なります。
問2	答え 3 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の実などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の実を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしたりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問3	答え 3 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問4	答え 3 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的道具として用いられた。	土偶は、縄文時代の人々が自然界の精霊や生命力を崇める中で生まれた道具です。女性を模した形が多いことから、安産や豊作といった「産み出す力」への願いが込められていたと考えられており、祭祀や呪術（まじない）の道具として用いられました。他の選択肢にある「有力者の墓（古墳）の周囲に並べる」ものは古墳時代の埴輪を指します。
問5	答え 4 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。	縄文土器の出現は、それまで生で食べていた食料を「煮炊き」することを可能にしました。これにより、硬い木の実やアクのある植物も食用にできるようになり、食料の「保存」も容易にするなど、当時の生活を大きく安定させました。稲作が本格化し、貯蔵用としての機能がより特化していくのはのちの弥生時代のことです。また、祭祀に使われることもありましたが、主な用途は生活に密着した調理や保管でした。
問6	答え 3 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、魚を中心とした生活を営んでいた。	氷河時代が終わり地球が温暖化したことで、海面が上昇して日本列島が大陸から切り離されました。この時期から始まる縄文時代では、人々は定住を始め、地面を掘り下げて床とした竪穴住居に住むようになりました。自然環境の変化によって出現した中小動物を射止めるための弓矢が普及し、植物の採集や、骨角器を用いた漁など、自然の恵みを多角的に利用する生活へと変化しました。稲作や高床倉庫は後の弥生時代、古墳は古墳時代の特徴です。
問7	答え 1 竪穴住居	縄文時代、弓矢の発明や土器の使用によって食料の獲得・保存が安定したことで、人々は移動生活から一箇所にとどまって暮らす定住生活へと移行しました。地面を数十センチメートルほど掘り下げて床にすることで、冬の寒さや夏の暑さをしのぎやすくする工夫がなされており、この構造の住居は弥生時代以降も長く使われ続けました。
問8	答え 1 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	「縄文の女神」は、山形県の西ノ前遺跡から出土した縄文時代を代表する土偶です。土偶は縄文時代特有の遺物であり、その造形からは当時の人々の高い技術力や、精神世界を知ることができます。弥生時代に広まった青銅器や、古墳時代の埴輪とは、製作された時代も文化的な背景も明確に区別されます。
問9	答え 3 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク（知床）などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。	アイヌの人々は北海道、樺太、千島列島といった北方の地域を生活圏としてきた先住民族です。彼らは文字を持たない独自の言語を口承で伝えてきましたが、その痕跡は現代でも多くの地名の中に残されています。一方、選択肢にある琉球民族は南西諸島、渡来人は古代の技術伝達、蝦夷は主に東北地方の人々を指す言葉であり、地域や歴史的背景が異なります。
問10	答え 2 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。	東名遺跡で発見された編みかごは、縄文時代の人々が身近な植物を利用して食料の採集や運搬を行っていた高い技術を持っていたことを示しています。この時代の生活は自然環境に強く依存していたため、自然の力を畏れ、豊かな収穫や安産などを祈る呪術的な道具として土偶が盛んに作られました。古墳の造営や環濠集落、国分寺の建立は、より後の時代（古墳時代、弥生時代、奈良時代）の出来事です。
問11	答え 3 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。
問12	答え 1 食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムの信仰を持っていました。土偶はその信仰に基づき、女性をかたどることで生命の誕生や食物の豊穡を祈ったり、体の一部をわざと壊すことで身代わりとして病気の治癒を祈ったりする目的で作られました。古墳時代に作られた「はにわ」や、弥生時代以降の貯蔵用土器とは、製作された時代も目的も異なります。